

1. 今回はぬい糸の立場からぬいつれのしかたを布地の場合と比較した。その結果、ぬい糸によっては布地よりもぬいつれが進み、縫目しわができることがあるので、ぬいつれ除去に効果ある方法の発見のためこの実験を実施した。

2. 試料は木綿の浴衣地であり、ぬい糸は三子糸とカタン糸である。これらを用いて並み縫、三つ折りぐけ、耳ぐけの3種を行ない、糸しごき後の縫いつれ量を測定した。次に洗たくをくり返してぬい方別に比較した。この結果を前報の布地のぬい目つれに比較するとぬい糸が洗たくのため布地よりも縮んで、縫目つれを促進させる傾向にあるので、余分のゆるみを縫製途上にあたえて一針返し針とし、前同様の洗たくをくり返して、普通のぬい方のものと比較したら、並み縫と三つ折りぐけには有意差が認められた。

3. 布地の中でも浴衣地の方が縫い糸をゆるめて縫うことに効果あることが明らかとなった。縫目つれの主役は布地の組織によることであり、縫い糸は洗たくによる収縮分を縫目途上におくことで並み縫、三つ折りぐけは縫いつれ除去に役立つことがはっきりした。耳ぐけに効果はなかったことは、布の耳糸が太いため、耳糸自身の洗たくによる収縮が全く同じであって、ゆるめた糸の効果はなかったのだと考えられる。